

令和5年度 重点目標達成のためのアクションプラン

氷見市立湖南小学校

<本年度の重点目標>

主体的に学び、確かな学びを実感する子供の育成

前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する達成目標や方策について、子供たちが評価しやすいものがよい。 ・子供自身が見通しをもって挨拶運動を企画し、挨拶の場面や時間、方法を考えて取り組むなど、子供たちが中心となって挨拶を広めていく工夫が必要である。 ・読書の習慣化が図られ、想像する力や文章を読み取る力が付いてきている。読書の効果を引き出し、文章を読み書きする力をはじめ、基礎学力をさらに高めていく方策を考えていく必要がある。 ・時間を決めて学習する習慣付けを図ることで、学習する時間を自己管理することができるようにしたい。そのためには、学年の実態に応じて、時間を意識して学習できるように教師が働きかけていくことが重要である。 	
具体的な達成目標 (数値目標)	<p><生徒指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶や場に応じた正しい言葉づかい」「思いやりのある言動」ができた」と評価する児童が80%以上になる。 	<p><学習指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「朝活動の取組によって、自分の学力が伸びた」と評価する児童が80%以上になる。
行動Ⅰ (方策)	<p><方策1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学級において、道徳や学級活動等で「挨拶や場に応じた正しい言葉遣い」について話し合い、各学年が行う挨拶運動を通してよりよい挨拶の習慣化を図る。 <p><方策2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に一度、全校で一斉に「ほかほか週間」を実施し、うれしかった言動等を掲示することで、全体の意識を高める。 	<p><方策1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝活動では、計算・漢字・応用問題等、学年の実態に合った問題に計画的に取り組む。 <p><方策2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組んだ成果物を累積していくことにより、自分の学力面の成長を実感できるようにする。
中間評価		
行動Ⅱ (方策)		
年度末評価		
学校関係者 評価		
次年度への課題		